

大
學
少
考
前
世
過
大
學
少
考
前
世
過

僧
侶
神
官
心
禪
門

東
京
秩
山
堂
行

僧侶神官必携

大塚祐英著



近日衆論ノ歸嚮スル所トナ
シガ果セル哉我が政府ハ太

特64
政官第拾九號

布達ヲ以テ自今神佛教導職



住職ヲ任免シ及ビ教師ノ等

級ヲ進退スルコトハ總テ各管長ニ委任シ更

ニ五ヶ條ノ條規ヲ定メラレタリ是レ如何

ナル所以ニ由來シタルノ布達ナルカ此ノ

布達ノ出ツルニ先ダチ北垣京都府知事ハ
各宗本山ノ管長ヲ會シテ宗教上ノ事ニ關
シ懇諭スル所アルヲ以テ聊^カ其ノ由テ出ツ
ル所ナル可シト思フ所ヲ知ルニ足レリ尤
モ此ノ示諭ハ全ク北垣君一個ノ資格ヲ以
テシタルモノニシテ府知事タル行政官ノ
資格ヲ以テセザルモノナリトノ由ナレバ
固ヨリ以テ宗教上ニ關スル政府ノ趣意ヲ
見ル可キニアラザレト同君ノ任ヲ奉ズル

(2)

ノ地ハ即チ各本山ノ根據タル場所ナリ此
ノ地ニ知事タル此ノ人ニシテ此ノ示諭ア
リ其ノ示諭以テ政府ノ趣意ヲ推察スル當
ラズト雖モ蓋シ亦遠カラザル可シト信ズ
ルナリ故ニ其說話ノ大意ト稱スル文章ヲ
掲記シ而シテ後チ本布達ニ及ビ聊カ末段

(3)

ニ至テ講論スル所アラントス
今日各老師ヲ此ニ會シタルハ宗教前途
ノ一ニ付少時懇話セント欲スル所アル

(4) ナリ此懇話ノ前一語述べ置シベキトアリ他ニ非ラス我國政ノ事ハ緊要ノ件アリ樞密ノ件アリ故ニ其樞機ニ關スルモノハ大政府ノ他ニ漏サ、ル所ニシテ就中外交機密ニ關スル件ハ最モ緊要ニシテ地方官等ノ關リ聞クベキ所ニアラス然ルニ今日懇話セントスルノ大要ハ外交上ニ關スル所多シ是レ全ク政府ノ訓令内達ヲ受ケタルニモ非ラズ又漏レ聞キタ

(5) ルキノニ非ラズ而シテ府知事が各管長ニ達スルニモアラズ畢竟將來ヲ慮リテ一場ノ懇話ニ過ギザレハ宜ク此意ヲ誤了セラレザランコト乞フ抑モ地方ノ任ヲ辱ケタル者ハ常ニ大政針路ノ向フ所ヲ察シ其方向ニ違ハザル様漸ク歩ヲ進メサレハ將來大ナル弊害ヲ生スルコトアルヲ恐ル故ニ法令未ダ發セザルモ訓令之ヲ示ザミルモ能ク大

(6)

政全體ノ前後影響ヲ考察シテ其前途ヲ
圖リ將來ヲ考ヘ以テ其進路方向ヲ定メ
サル可カラズ之レニ由テ宗教前途ノ
ニ付テモ豫メ將來ヲ慮リテ之ニ應スル
ノ心得ナカル可カラザルナリ蓋シ方今
大政全體ノ方向テ察スルニ外交益々開
ケ内政日ニ進ム個ハ是レ獨我國ノミニ
非ズ凡ソ地球上世界萬國此氣運ニ傾向
シ其勢ハ復タ他ニ回轉スヘキ者ニ非ズ

(7)

果シテ然ラバ我帝國ニ於テモ所謂治外
法權ヲ挽回シ内地雜居ヲ認許スル等ノ
事即チ條約ノ改正モ或ハ遠ニアラザル
ベシト想像ス若シ右ニ述ブル如ク條約
改正ニ相成リ外國人ノ内地雜居ヲ許サ
ル、トアルニ際シテハ宗教、教育、警察、裁
判及び工業、商賣等ノトハ勿論其他百般
ノ事業一層活眼ヲ開イテ銳進セサレハ
帝國ノ獨立富強ヲ謀ルト實ニ難カルベ

シ尤モ宗教ノ事ハ今日ヨリ深ク注意ヲ
要スベキト思慮セリ其故ハ若シ雜居
ヲ許サル、キハ何國ノ人民ヲ論ゼズ苟
モ我内地ニ住居スルモノハ一切我治内
ニ統轄シテ内國人民同一ニ支配スルコ
ト故各人民ノ信ズル宗教ヲモ許スベキハ
理ノ當然ナリ己ニ其雜居ヲ認許シテ其
人身ニ附帶シタル宗教ノミヲ許サスト
謂フヲ得ベケンヤ果シテ然ラハ條約改

(8)

正ノ曉ハ宗教ハ内外ヲ問ハズ其人民ノ
信向ニ任ストニ相成ルベシト思ハル此
時ニ際シ新ニ入りタル宗旨ハ銳意其宗
教ヲ擴張スルコト強ウシテ又舊來ノ宗旨
ハ其各宗旨ノ保守維持ニ力ヲ盡シ互ニ
相競争スルニ至ルハ蓋シ勢ノ止ム可カ
ラザル所ナラン是時ニ當リテ宗教ガ國
家ニ益スル所アルカ又翻テ其害ヲ及ボ
ス實ニ得失利害ノ分界ナリ之ヲ約言ス

(9)

(10)

レバ宗教ノ争ニ甲乙アリ甲ハ道德學識
即チ智力ノ争ニシテ國家ニ益スルノ福
因ナリ乙ハ舌戰腕闘即チ邪念ノ争ニシ
テ國家ヲ損害スルノ禍器トナルベシ甲
ハ宗教ノ本職ナルベシ其争ヤ識力ノ廣
大ナル者必ズ衆心ノ歸依スル所トナラ
シ是畢竟争ニ非ズ只智德養成ノ効力ナ
リ此ニ至ラバ衆心善ニ歸シ國家ノ安寧
疑フ可カラズ即チ國家ヲ益スルノ福因

(11)

タル所以ナリ乙ハ凡俗邪念ノ争ニシテ
業ニ已ニ道德ヲ失フノ甚シキ者ナリ道
徳ヲ失へバ宗教ノ徒ニハ非ザルベシ其
結果ハ終ニ國家ヲ損害スルノ大ナル者
トナラン即チ其禍器タル所以ナリ熟觀
察スルニ現今漸シ其禍器ノ根源ヲ釀成
スルガ如シ今ニシテ速ニ其弊ヲ矯メザ
レハ向後臍ヲ噬ムトモ及バザルニ至ル
ベシ近頃聞シ佛教信徒等動モスレバ耶

(12)

蘇教天主教等ノ説教者ヲ妨害シ或ハ之
レガ家屋什具ヲ壊リ或ハ其信徒教師等
ヲ傷ケ以テ亂暴ノ所行ヲ極ムルヲアリ
シト如此事數々重ナリテ萬一各國政府
ノ問題トナルヲアルニ於テハ如何ナル
結果ヲ見ルベキヤ深ク察セザル可カラ
ズ夫レ宗教ハ人々思想ノ安着決定ヲ求
メテ無量ノ幸福ヲ得ル者ナラン然ラハ
人心ノ關係スル所之ヨリ大ナルハアラ

(13)

ザルベシ宜ナル哉文明ノ國ニ於テハ宗
教ハ其各人民ノ信向ニ任カスト故ニ宗
教ヲ妨害スルハ財産等ノ如キ肉體ニ關
スル者ヲ損フノ比ニ非ズ是レ外交宗教
ノ一ハ一大問題ニシテ最モ緊要事件タ
ル所以ナラン右ニ述ブル如キ一大緊要
事件タルニ付若シ將來或ハ外國宣教師
ヲ教傷シ或ハ其寺院等ヲ損害スル等ノ
ヲアルキハ各國政府ハ我人民ノ道德ヲ

(14)

失フ野蕃ノ輩ト見倣シ終ニハ更ニ内地ニ迄モ治外法權ヲ布クヲ要求スルニ至ルモ測ル可カラズ且ツ夫レ各國政府ガ如此キ要求ヲ望トキハ必ズ威力ヲ以テスルハ徃々皆然リ是レ宗教ト國政トハ其性質ノ殊ニシテ國家ノ争ハ必ズ威力ヲ假テ以テ其目的ヲ達セントスルハ勢ノ免レザルモノトス此際ニ當テ彼ノ要求ニ應ジテ治外法權ヲ内地ニ布ク

(15)

ヲ諾センカ我帝國ノ尊嚴威力忽チ地ニ落チ此獨立ヲ保有スルヲ能ハザルナリ國民復タ何ノ面目カ之レアラシヤ之レヲ拒絕センカ則チ戰アルノミ各國聯合ノ海陸精兵ヲ要衝ノ地ニ引受ケ力折レ矢盡ルマデ戰鬪ヲ決セハ無數ノ生靈肝腦地ニ塗リ億萬ノ財力ヲ竭盡シ勝敗如何ハ姑ク置キ國家ノ疲弊何ノ時カ挽回セン之ヲ思ハバ感戟悚然胸ヲ刺ス慎マ

(18)

ザル可カラズ宗教ノ争一ダビ誤ラハ其
宗徒ノ道德ヲ失フノミナラズ其結果ハ
竟ニ慘毒ヲ極ムルノ戦闘トナルカ又ハ
獨立ヲ保有スル能ハザルニ至ルカ何レ
ニシテモ我帝國ヲ害スルノ甚シキ者ニ
シテ平生忠愛ノ心果シテ焉シニアルヤ
前段掲ゲル妨害者ト雖ヒ豈ニ我帝國ニ
忠愛ノ赤心ナカラシヤ只其外交ノ緊要
ナルヲ宗教ノ大ニ外交ニ關スルヲ又他

(17)

ノ宗教ヲ妨害スルノ結果ハ我帝國ヲ害
シ即チ己レ自ラ己レノ身ヲ破ルノ理ヲ
知ラサルニ由リ知ラズ識ラズ道德ヲ失
ヒ不忠ノ罪ヲ犯スニ至ル者ナレハ信ニ
愍諒スヘキ者ナラスヤ
宗教前途ノ國家ニ關スルヲ概テ如此シ
果シテ然ラハ各老師ハ遠ク之ヲ慮リ其
管長タル職ヲ以テ各末派教導職等ヲ誘
導シ凡ソ佛教信徒タル者ハ右將來ノ理

(18)

勢ヲ了解シ誤ツテ國家ヲ害スルノ罪人
トナラザル様教導セシメラルベシ今日
ヨリシテ之ガ注意ヲ盡シ邪念ノ争タル
惡弊ヲ矯メ道德智識ノ争即チ宗教ノ本
分ヲ盡シ國家ヲ益スルノ福因ヲ養成セ
ラレシコトヲ深ク冀望ニ堪ヘザルナリ
又一義ハ唯佛教ノミノ徒ニ望ムニアラ
ズ普ク各宗教ノ徒ニ望ム所以ナリ宗教
ノ事ニ付テハ近來種々ノ浮説流言多ク

(19)

シテ人心ノ疑惑ヲ生ズルコト少カラズ就
中京都ハ各本山ノ根據タル場所故四方
人心ノ關係スル所尤モ甚シ由テ宗教ノ
前途如何ヲ考察シ此ニ一場ノ懇話ヲナ
シテ各老師ノ注意ヲ乞フモ亦止ムヲ得
ザルニ出ヅルナリ
右ノ説話文ハ北垣君ノ談話ヲ直寫セルモ
ノナルヤ將タ其談話ノ草案トナリシモノ
ナリシヤ之ヲ知ルコト能ハズト雖モ蓋シ同

君ガ宗教上ニ於テ主持スルノ論意ヲ明カ
ニセル文案ナリト推想シテ可ナルガ如シ
然ラバ此說話以テ左ノ布達ヲ見ハ思ヒ半
バニ過ギン

(20)

太政官第拾九號布達

(明治十七年八月十一日)

自今神佛教導職ヲ廢シ寺院ノ住職ヲ任免
シ及教師ノ等級ヲ進退スルユトハ總テ各
管長ニ委任シ更ニ左ノ條件ヲ定ム

第一條 各宗派妄リニ分合ヲ唱ヘ或ハ宗

派ノ間ニ爭論ヲ爲ス可ラズ

第二條 管長ハ神道各派ニ一人佛道各宗

ニ一人ヲ定ム可シ

但事宜ニ因リ神道ニ於テ數派聯合シ

テ管長一人ヲ定メ佛道ニ於テ各派管

(21)

長一人ヲ置クモ妨ケナシ

第三條 管長ヲ定ム可キ規則ハ神佛各其

教規宗制ニ由テ之ヲ一定シ内務卿ノ認

可ヲ得可シ

第四條 管長ハ各其立教開宗ノ主義ニ由
テ左項ノ條規ヲ定メ内務卿ノ認可ヲ得
可シ

一 教規

一 教師タルノ分限及其稱號ヲ定ムル
事

一 教師ノ等級進退ノ事

以上神道管長ノ定ムベキ者トス

一 宗制

一 寺法

一 僧侶並ニ教師タルノ分限及其稱號

ヲ定ムル事

一 寺院ノ住職任免及教師ノ等級進退

ノ事

一 寺院ニ屬スル古文書寶物什器ノ類
ヲ保存スル事

以上佛道管長ノ定ムベキ者トス

第五條 佛道管長ハ各宗制ニ依テ古來宗

派ニ長タル者ノ名稱ヲ取調ヘ内務卿ノ
認可ヲ得テ之ヲ稱スルコトヲ得

右布達候事

(24)
以上第拾九號布達第一條ノ意ハ京都府知
事北垣君ノ說話ヲ以テ其偶意ヲ知ルニ足
ル可シ而シテ神佛敎導職ヲ廢シ寺院ノ住
職ヲ任免シ敎ノ等級ヲ進退スルノ事務ヲ
以テ各宗管長ニ委任シタル以上ハ宜シク
管長ヲ定ムルノ事無カルベカラズ於是乎

第二條ヲ以テ管長ヲ定ムルノ制ヲ示シ「管
長ハ神道各派ニ一人佛道各宗ニ一人ヲ定
ム可シ」ト云ヘリ而シテ實際ノ便宜ヲ謀リ
更テニ神道ニ於テ數派聯合シテ管長一人
ヲ定メ佛道ニ於テ各派管長一人ヲ置クモ
妨グナキ旨ヲ示セリ而ルニ此管長ナル者
ハ此新制ニ由リ新タニ新管長ヲ生ズルニ
非ズシテ或ハ舊來成リ立チシ三十七ノ管
長舊ニ依リテ其地位ヲ保ツニ至ルベキハ

(25)

各派管長一人ヲ置クモ妨ゲナキノ文法ニ
由リテ知ルヲ得可シ又今般教導職ヲ廢シ
タル後其身分ノ取扱ハ總テ其在職ノ時ノ
等級ニ依ルベキ準例アルヲ見レバ此改革
ノ後各宗管長及ビ教導職在來ノ地位ハ變
更スルヲ無フシテ多クハ舊様ヲ失ハザル
モノナラン乎然レモ管長ノ勢威ハ自ラ從
前ニ倍護スルニ至ラン假令政府ハ宗務ヲ
以テ管長ニ委任スルマデナリト云フ者ア

(26)

ルモ此發令アルノ主旨ヲ求ムレバ則チ政
治ト宗教トノ關係ヲ絶ツニ在ル者ナレバ
管長一タビ定マリ教規宗制等ノ條規ヲ立
テ、内務卿ノ認可ヲ經ルノ後ニ至ラバ宗
教者自ラカ其事ヲ爲スノ間ニ於テ別ニ政
府ノ干涉ヲ要スベキヲモナク政府モ亦之
レニ關係スルノ事項アラザレバ宗教ノ盛
衰興廢ハ總テ管長ノ責ニ歸シ教師ヲ處置
スルノ權力一ニ管長ニ屬スルヲ以テ大ニ

(27)

其勢威ヲ加フルニ至ルハ疑ナキナラン
第三條ニ於テ管長ヲ定ルノ規則ヲ示シ第
四條ニ於テ管長カ宗務ヲ理宰スベキ條規
ヲ示シテ神道ニ關シテハ教規、教師タルノ
分限及其稱號、教師ノ等級進退、佛道ニ關シ
テハ宗制、寺法、僧侶並ニ教師タルノ分限及
ヒ其稱號、寺院ノ住職任免及教師ノ等級進
退、寺院ニ屬スル古文書寶物什器ノ類ヲ保
存スルノ諸項ヲ定メ内務卿ノ認可ヲ得テ

(28)

之ヲ施行スルヲ令セラレタリ而シテ其教
規ト云ヒ宗制ト云ヒ寺法ト云フ者ハ皆從
來神佛者流ノ間ニ存立セル者ニ依リテ之
ヲ文字ノ上ニ顯ハスモノニシテ別ニ新奇
ノ條規ヲ設クルニアラサルヲ知ル可シ又
(29)
第五條ニ於テ佛道管長ハ各宗制ニ依リ古
來宗派ニ長タル者ノ名稱ヲ取調ベテ之ヲ
稱セシムルハ則チ從前ノ如ク政府ノ撰定
セル稱呼ヲ用ヒシメズ自ラ其名ヲ撰定ス

(30)

ルニ放任シタルモノニシテ政治ト宗教ト相別カル、ノ主意自ラ明カナルガ如シ右第拾九號布達ノ主意ヲ推シテ觀察ヲ下マスキハ政治ト宗教ト全然分離シタリト云フ可ラザルノ情ナキニアラズト雖モ政治ノ分界ヲ明カニシテ其關係ヲ絶チシ精神ハ自ラ貫徹シタルヲ覺ユルナリ抑モ宗教者ガ自家ノ智識德望ニ依頼シテ其地位ヲ社會ニ保ツ能ハズ政府ノ寵光ニ依リテ

(31)

其勢ヲ張ラントスルハ好スヘキトニアラズ徒ラニ宗教ノ衰頹ヲ徵ス可キノミ苟モ智徳ヲ具ヘタルノ教師ナラシニハ必ズ其獨立ヲ希望スルヤ明カナリ而ルニ今ヤ政治ノ直轄ニ離レテ政府ノ威靈ヲ被ラサルヲアルガ爲メ其宗教ノ勢力ヲ失ハシトテ怨ル、ノ教師アラハ其見ル所ノ淺ク其安ソズル所ノ卑キヲ知ルニ足レリ決シテ今日ノ社會ニ對シテ其教義ヲ弘敷スルノ氣

(32)

カアルモノニ非ルナリ故ニ政治ノ干涉ヲ
ニ離ルルコトハ宗教者ノ固ヨリ自ラ期ス
ル所ニシテ自後其智徳ヲ修メ專テ自方ニ
依頼スルノ精神ヲ煥發スルハ此事ニ始マ
ル可ケレバ此布達ハ則チ宗教上ノ決シテ
無効ノモノニ非ル可シ予輩ハ政府ガ猶ホ
此布達ノ精神ヲ擴充シテ益々政教ノ分界
ヲ明カコシ而シテ宗教者ガ愈々自立ノ徳
操ヲ養フテ政治外ニ逍遙シテ宗教ノ煩累

ヲ政治上ニ及ボスナキニ至ルヲ希望ス
ルナリ

(33)

予輩ノ信ズル所ニ據レバ宗教上ニ關シテ
ハ日本ハ從來一種特別ノ風習ヲ有セリ上
統社會ノ士人が多クハ無宗旨ノ境涯ニ逍
遙スルト是レナリ近來歐米諸邦ニ於テ漸
ク宗教ノ壓制ヲ排シテ無宗旨ノ交社ヲ組
織スルモノアリ予輩現ニ東洋ニ在ル歐米
人ヲ見ルニ直チニ教法ニ關スル者(宣教師

(34)

ノ族)ニ非ラザルヨリハ大抵無宗旨ノ感想ヲ抱持スルガ如シ歐米社會ニ在リテハ固ヨリ社會ノ風潮門族ノ慣例細君ノ壓制ニ羈縛セラレテ餘義ナシ寺院ニ參詣シテ眞面目ニ禮拜ノ式ヲ踐ムモノナルモ一たび東洋ノ地ニ來レバ多クハ宗教師ト相隔離シテ殆ント宗教アルヲ忘レタルノ情ナキニアラズ予輩將來ヲ想像シテ宗旨ナルモノ、盛衰ヲ測ルニ何等ノ教法モ文法ノ進

(35)

歩スルニ伴フ能ハザル可シ否ナ之レト相接觸ノ寧ロ衰頽ノ地ニ向フモノナルノ想像ナキニアラズ今夫レ西人ノ宗旨ニ關スル議論ハ暫ク措キ日本人ニ在テハ無宗旨ノ種族極メテ多キヲ以テ此種族ニ對シテ便更ニ與フルノ制ヲ立ルハ政治上忽ニス可ラザルヲナラシカ故ニ聊カ此ニ論及セザルヲ得ズ

從來葬式ノ事ハ全ク宗教ト密降シテ相離

(36)

レザルモノニシテ凡ソ人ノ死去スルアレ
ハ皆僧侶ニ頼リテ寺院ノ境内ニ葬リ一ニ
宗教ノ管理ニ歸シ人生死後ノ始末ハ全ク
僧侶ニ附耗シタルヲ以テ行政ノ取締ニ屬
スベキ戶籍法ノ如キモ半ハ寺院ノ裁理ス
ル所トナレリ維新以後神道者亦葬儀ヲ裁
理スルノ風ヲ生シ神葬祭ノ一式社會ニ行
ハル、ニ至レリ於是乎從來眞言若シクハ
法華或ハ禪宗眞宗等ノ孰レニカ宗門ヲ立

(37)

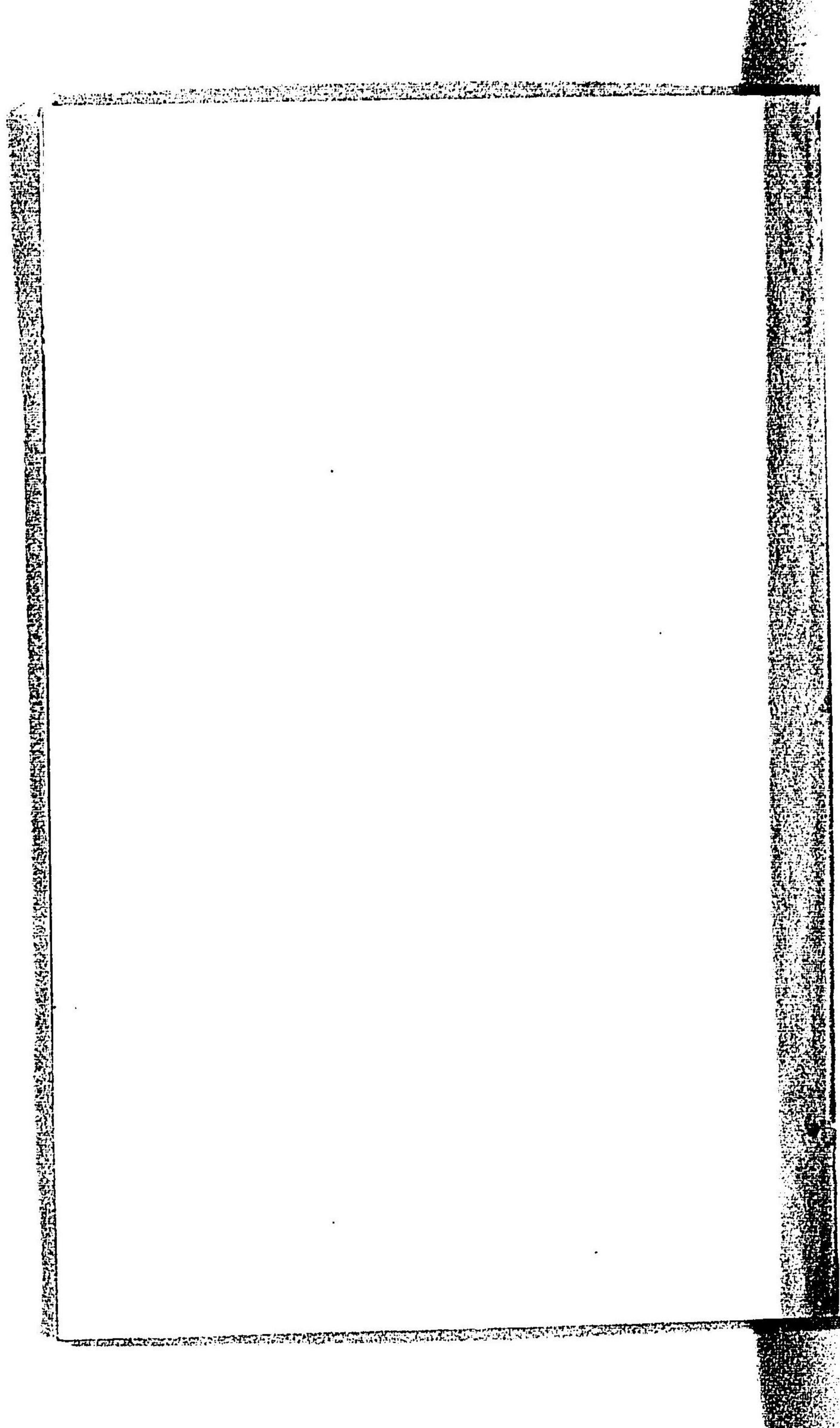
テタル人々其祖先ノ遺法ニ倣ハズ神葬ニ
依ル者アリ此等ハ畢竟我國人ノ宗教冷澹
ナル一証ナリ而ルニ今日家門ニ埋葬ノ事
アレハ神道若クハ佛道ニ依リテ宗教上ノ
關係ヲ經ルニ非ンハ埋葬ノ事ヲ果タス能
ハザルヲ以テ宗旨ニ就テハ本來無物ノ人
モ家ニ死人アリシガ爲メ假リニ宗教ノ門
ニ往來スルニ至ル是レ或ハ人情ニ副ハザ
ルモノ、如シ蓋シ佛教モ奉ぜズ神道ヲモ

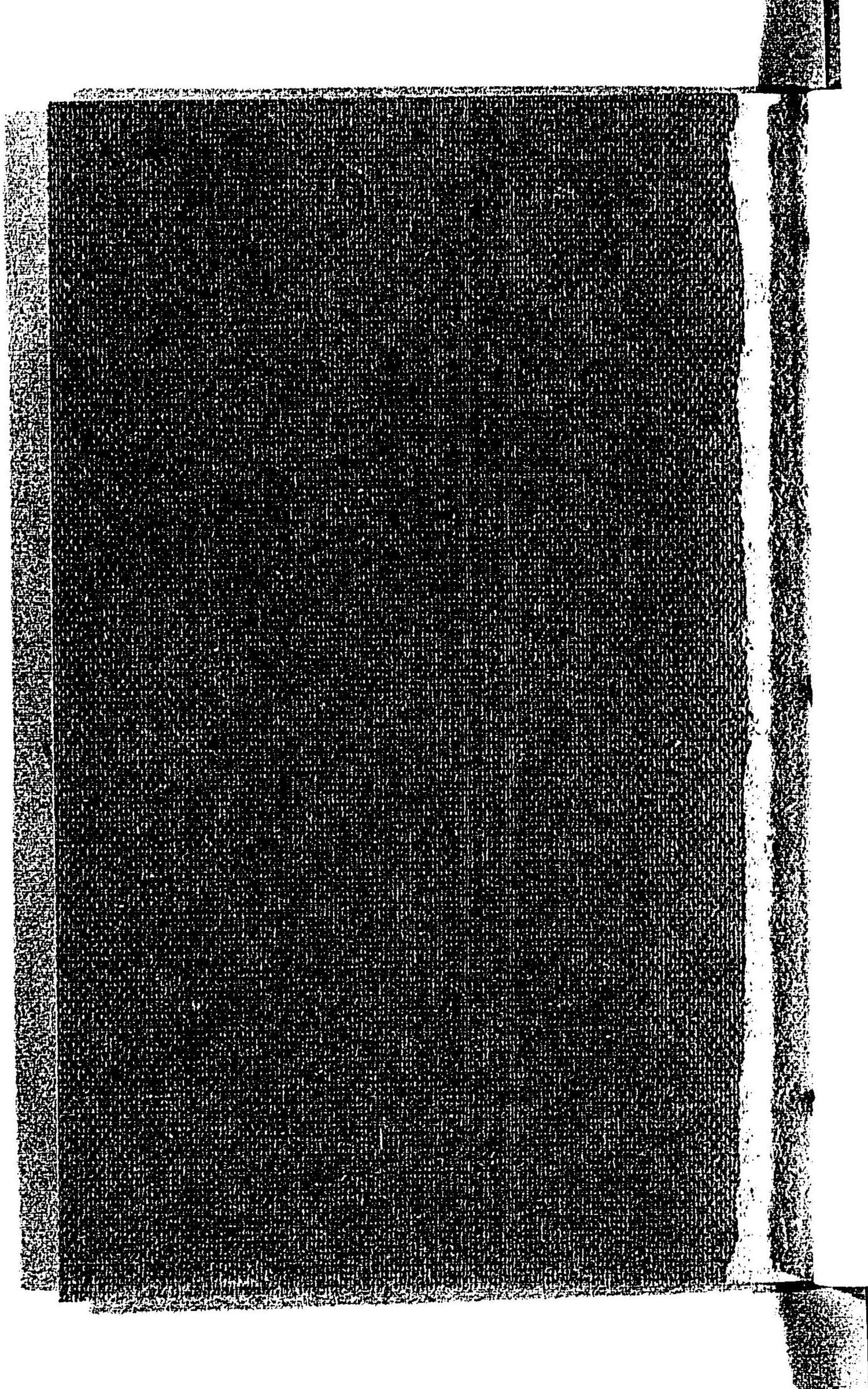
守ラズ又耶蘇ニモ歸セザル一種族ハ唯能
 シ埋葬ノ事ヲ果タスノミニテ足レルナラ
 シ恐ラクハ僧ニ飯シ佛ニ禮スルノ儀式ヲ
 願ハズシ其埋葬ノ禮式ハ各分限ニ應ジテ
 自ラ之ヲ定ムルヲ求ムルナラン然ラハ則
 ナ行政上ノ取締ニ於テ支障ナキヲ限リト
 ナシ宗教ト相關セズシテ其禮儀ヲ畢ルヲ
 得セシメハ大ニ社會ノ一種族ヲ便スルノ

所應ノラン乎

欠

MISSING





4

013706-000-0

特64-840

僧侶神官必携

大塚 祐英/著

刊年不明

ABA-0178



特

8

